

実践報告

「おだわら自然楽校」の実践報告

A report on an ODAWARA outfitters training school

和田 圭史 WADA Yoshifumi
神奈川県小田原市子ども青少年部青少年課

山内 直樹 YAMAUCHI Naoki
神奈川県小田原市子ども青少年部青少年課

キーワード

指導者養成、派遣、体験学習事業、指導者、学校・地域、マネジメント

要旨

小田原市では平成22年度より新たな体験学習の担い手づくりを行うため、指導者養成研修事業「おだわら自然楽校」を開校し、受講生を指導者として学校や地域が実施する体験学習に派遣する「指導者派遣事業」と受講生が体験学習の企画・運営を行う「地域・世代を超えた体験学習事業」を展開している。この3つの事業はこれまでの指導者養成のみを行うだけでなく、行政のマネジメントにより、学校や地域と指導者を繋ぎ、主催者の負担軽減や安全性の向上と指導者として支援する受講生の活動の場を同時に提供するとともに、多くの子どもたちに体験学習機会の提供を実現した。本稿では、これらの取り組みについて報告する。

I. はじめに

小田原市は神奈川県の西部に位置し、南は相模湾、南西には箱根外輪山、また市内中央には酒匂川が流れ、5つの鉄道が交わる鉄道交通の要所となっている。自然環境と歴史文化の調和の取れた人口20万人弱の中核都市であり、市街地中心部にある小田原城は毎年多くの観光客が訪れ、小田原のシンボルとなっている。

本市では、総合計画「おだわらTRYプラン」において、青少年育成の推進を図るため、「青少年育成指導者層の形成」や「体験・交流学习の充実」といった施策を位置付け、地域の担い手となる指導者の養成を図り、青少年育成団体の活動の支援に努めるとともに、豊かな自然をはじめとしたさまざまな地域資源を活用しながら、学校や地域が連携した体験・交流学习の機会の提供に努めている。

過去には、協調性や自立心を育む「人づくり」

を目的に、平成6年から16年に亘り、約500名の小学校5、6年生と、高校生サポーター、大学生アドバイザー、社会人サポーターなど80名ほどの指導者が一緒になって、大型客船『にっぽん丸』で、横浜港－瀬戸内海往復間を2泊3日で航海する体験学習事業「少女オーシャンクルーズ」を実施していた。

この「少女オーシャンクルーズ」は、大きな成果を挙げてきたが、一方で事業費等の課題もあった。こうした中で「郷土小田原の自然や産業、生業などを再認識し、子どもたちの身近な生活環境の中で、さまざまな体験を通して豊かな人間性を育む」といった考えに立ち、子どもたちの誰もが気軽に参加できる体験学習の機会を提供する、新たな体験学習の仕組みへシフトしていくこととした。

また新しい体験学習へとシフトするにあたり、その事業の担い手は欠かせないものである

ことから、担い手となる指導者を養成し、学校や地域が行う体験学習を支援する基礎づくりを行うため、指導者養成研修事業「おだわら自然楽校（がっこう）」を平成22年度に開校した。そして、これを軸に、学校や地域が行う体験学習や体験活動をサポートする「指導者派遣事業」や、小学校5、6年生を対象とした体験学習事業「地域・世代を超えた体験学習事業」を併せてスタートさせた。

これら3つの事業を展開するにあたっては、行政のマネジメントにより、学校や地域と指導者を繋ぐことで、主催者側の負担軽減や安全確保を図るとともに、指導者側には指導者としての活動の場を提供する「小田原方式」を実現した。今回はこの行政が主導する体験学習の先進的な取り組みについて紹介する。

Ⅱ. 本市の取り組み

1. 指導者養成研修事業

体験学習の担い手となる指導者の養成を行う、指導者養成研修事業「おだわら自然楽校」<以下、OOTS※オッツ（ODAWARA Outfitters Training School）>では、体験活動に欠かせないキャンプスキル、野外炊事、安全対策、危機管理、コミュニケーションスキル、プログラム企画力などの知識や技術を楽しみながら学ぶ研修講座を開催している。研修は基礎的な知識を学ぶ基礎編を5回、登山や自然観察など実践的なより高度な内容について学ぶ特別編を4回、合わせて年間9回の研修を実施している。また、年間9回の研修プログラムは、指導者に必要な基礎的な項目は据え置いているものの、年度ごとに研修内容やフィールドを変え、指導者として必要な知識やスキルを様々なフィールドで繰り返し参加して学ぶことができるよう工夫し、その講師は各方面で活躍されている方を招き、指導者としての指導力のもとより、自然の魅力や楽しみ方、危険回避、子どもとの関わり方など、受講生自身が楽しく学びながら様々な力を高めている。受講生は高校生から70歳代まで男女を問わず幅広い年齢層となっており、職業も会社員、公務員、教員、自営業、大学生など多種にわたっている。

なお、OOTS研修のプログラムの一つとして、OOTSでは受講生に対して指導者としての資格認定制度は設けていないため、国や民間団体等が実施する資格認定制度なども柔軟に取り入れ、平成24年度は文部科学省の資格認定

研修「自然体験活動全体指導者養成研修」を実施し、24人の受講生が全体指導者としての資格を取得するなど、指導者としての資質向上を図っている。

2. 指導者派遣事業

指導者派遣事業はOOTS受講生を指導者として学校や地域が主体となって行っている体験学習の場へ派遣することにより、青少年育成活動の充実を図ろうとするものである。「OOTS」のような指導者養成の各種研修は全国各地で行われているが、養成された指導者が実際に小学校や地域でその研修成果を発揮する機会は決して多くない。スタート間もない「OOTS」も認知度が低いことや、行政が養成した指導者とは言え、その信頼性の担保がないこと、さらには養成された指導者が小学校や地域へと入るルートがないことなどから、OOTS受講生の学校や地域での活動（指導者派遣）に至らないことが懸念された。そこで、「行政が積極的に小学校や地域とのパイプ役となりマネジメントを行う」ことで指導者が学校や地域に入りやすい環境づくりと、小学校や地域が指導者を受け入れやすい環境づくりを進めた。

指導者派遣事業の流れは、まず学校や地域からの支援依頼を行政（青少年課）が受け、次に行政側（青少年課）の担当職員と依頼者側とで事業プログラムの内容やスケジュールを確認後、OOTS受講生の中から指導者として事業に参加可能な方を募る。その後は行政側（青少年課）の担当職員と事業に参加する指導者との2～3回の打ち合わせで、当日のスケジュール、注意事項や役割分担の確認を行う。この際、受講生の負担を軽減するため、依頼者との調整はすべて行政（青少年課）が行っている。また、ある小学校が実施する体験学習では、総合学習の授業時間に指導者を派遣し、キャンプファイヤーやスタンプについて説明を行い、指導者と子どもたちとが事前にコミュニケーションを図ることで、宿泊学習の効果を高めた事例もあった。

本市の小学校では5年生のカリキュラム（授業）にて1泊2日の宿泊体験学習を実施（未実施校もあり）しているが、市外の野外活動施設を利用している。また、この施設は最寄り駅から徒歩1時間ほどの場所にあるため、多くの児童を引率しての移動には交通事故などの危険がある。これが指導者の派遣により、約100名

平成24年度指導者養成研修事業プログラム表

(基礎編 5回)

回	プログラム名	ねらい	内容	研修時間/活動の様子
1	ゲームdeグループビルド 講師：(株)足柄グリーンサービス 宮里 麻美 実施：5月12日(土) 場所：丸太の森 参加者数：16名	グループづくりに必要なコミュニケーションゲームやPA(プロジェクトアドベンチャー)などの実践を通して、指導者としての役割りや考え方を理解します。	・アイスブレイク ・イニシアティブの実践 ・PAプログラムの実践	5時間30分  イニシアティブの実践
2	指導者エキスパート講座 講師：Outdoor Life Style Produce 小清水哲郎 実施：6月2～3日(土～日) 場所：塔ノ峰青少年の家 参加者数：22名	野外体験活動の指導者として必要な危機管理、野外炊事、キャンプファイヤーなど一連の知識・技術を実践形式で学び、地域や学校の宿泊学習の支援の際に生かせる指導者を養成します。	・アイスブレイク ・野外活動の楽しみ ・安全管理 ・野外炊事 ・キャンプファイヤー ・災害時にも役立つアウトドアスキルとクッキング	14時間  野外炊事の指導
3	川のアクティビティPart 2 講師：Outdoor Life Style Produce 小清水哲郎 実施：6月30日(土) 場所：酒匂川河口 参加者数：22名	水辺での活動を安全に楽しく指導するための具体的な知識や技術を川のフィールドで学び、安全対策を徹底し、事故や怪我の対応や対処法の基本を身につけ、自らの安全能力を高めます。	・川の楽しみ方 ・川の安全管理 ・アクティビティの紹介 ・アクティビティの実践	5時間  川に入って実体験
4	リーダーシップトレーニング 講師：ルナ・イ・ソル/ ライフビジョンネット 高橋 紀子 実施：9月29日(土) 場所：市役所大会議室 参加者数：12名	子どもたちの状況を把握し、理解し、モチベーションを高めることや時に叱ること、集団を統率するなど、指導者として必要なリーダーシップを発揮する手法を習得します。	・子どもの社会環境 ・子どもの現状 ・ゲームの実践 ・伝承ゲーム ・自己有用感 ・レクリエーションとは ・リーダーとは	5時間  リーダーシップとは
5	子どもたちのための体験プログラムづくり 講師：国立赤城青少年交流の家 高瀬 宏樹 実施：2月3日(日) 場所：けやき茶室 参加者数：12名	子どもたちを対象とした体験活動プログラムづくりの考え方と理解についてグループワーク形式で学びます。子どもたちに学ばせたい、伝えたい「おもい」を具体的な形にするプロセスを理解します。	・企画とは ・企画の流れ ・発想のトレーニング ・個人ワーク ・グループワーク ・プレゼンテーション	5時間  「おもい」を形に、 プレゼンテーション

(特別編 4回)

回	プログラム名	ねらい	内容	研修時間/活動の様子
1	自然体験活動指導者養成 (前編) 講師：国立中央青少年交流の家 小林 真一 木風舎 橋谷 晃 実施：9月1日(土) 場所：市役所大会議室 参加者数：29名	文部科学省が進める長期宿泊体験学習をサポートするための補助指導者の資格認定を行い、体験学習の企画立案から支援することが出来る全体指導者を養成します。 (「補助指導者」資格認定)	・学校教育における体験学習の意義 ・教育課程と体験活動の関連性 ・自然体験活動の目的	5時間  講義を中心に、 知識を高めます
2	自然体験活動指導者養成 (後編) 講師：木風舎 橋谷 晃 実施：9月8日～9日(土～日) 場所：足柄ふれあいの村 参加者数：24名	文部科学省が進める長期宿泊体験学習をサポートするための全体指導者の資格認定を行い、指導者としての総合的なスキルアップを図ります。 (「全体指導者」資格認定) (「CONEリーダー」認定)	・自然体験活動の実践 ・アクティビティの企画と立案 ・アクティビティの実践 ・アクティビティの指導法 ・リスクマネジメント ・応急処置法	19時間  「全体指導者」として 24名が認定されました
3	どうして！？を解こう 講師：プロナチュラリスト 佐々木 洋 実施：10月20日(土) 場所：辻村植物園 参加者数：11名	子どもが自然に対して抱く疑問や不思議、魅力に対して、分かりやすく、ユーモアを交えながら答えるために、自然体験活動を実践しながらその指導方法を学びます。	・自然観察 ・自然体験活動の紹介 ・自然体験活動の指導法 ・自然体験活動の実践	5時間  自然体験、まず観察
4	あなたも山の プロフェッショナル 講師：木風舎 橋谷 晃 実施：12月2日(日) 場所：明神ヶ岳 参加者数：33名	山をフィールドにした体験活動を安全に行うための安全管理や、地図読みやコンパスの使い方を学び、足柄平野や箱根、相模湾の大パノラマが楽しめる明神ヶ岳山頂を目指して、野外体験活動を実践しその意義を学びます。	・地図読み ・コンパスの使用法 ・山の安全管理 ・山の歩き方 ・装備について ・登山の実践 ・野外体験活動の意義とは	6時間30分  達成感を体験

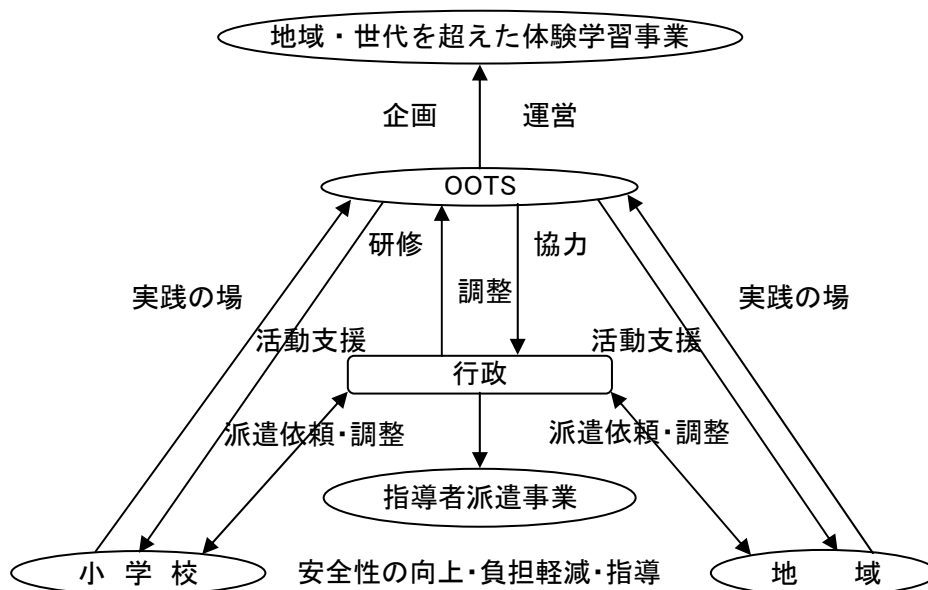
の児童に対して10名ほどの指導者を配置するなど、学校の先生だけでは付き添いが出来ない点を補い、学校側の安全確保をサポートし、目的地へ向かう途中の交差点や見通しの悪い箇所立つなどして安全性を高めることが出来ている。

会場到着後、指導者は各アクティビティをサポートし、危険を伴う野外炊事では火おこしの方法をはじめ、包丁や火の取り扱いなどを説明

する。調理の際は各班に付き添い後片付けまでの指導を行い、また、キャンプファイヤーでは薪組みやスタンプ、ファイヤーキーパー、火の後始末までを行い、安全かつプログラムがスムーズに進行できるよう支援している。

このように、指導者派遣事業を実施するまでは、小学校は宿泊体験学習を限られた教諭で運営しており、学校側にとっては大きな負担となっていたが、指導者を派遣することで、学校側

の負担軽減と児童のリスクマネジメントの強化や、子どもと大人の指導者との世代を超えた
おだわら自然楽校体系図



交流が実現するなど大きな効果が得られている。

さらに、指導者派遣事業は、子ども会など地域での野外活動においても、野外炊事などの経験が少ない保護者を支援し、OOTSの研修で学んだノウハウを提供することでプログラムのスムーズな進行や主催者の負担軽減、安全確保などを図るだけでなく、指導者自らにとっても研修で学んだ知識や技術を実践する場として、大きな経験を積める非常に有益な機会になっている。

このように、本市では行政が小学校や地域の依頼者側と指導者側を橋渡しすることで、前者には事業実施に伴う負担軽減を、後者には実践の場を提供すると同時に指導者としてモチベーションと資質向上を、そして、子どもたちには、より安全で充実した体験学習の機会を提供している。

なお、これまでに派遣した学校や地域数は、平成22年度が2校、平成23年度は2校2地区、平成24年度は4校1地区（うち1校は中学校）と少しずつ増えており、平成25年度は8校への派遣を予定している。今後は、宿泊体験学習未実施の小学校で同学習が実施されるよう積極的に支援することで、本市内の小学5年生の誰もが同様の宿泊体験学習を経験できる環境づくりや、地域への支援に努めていく。

3. 地域・世代を超えた体験学習事業

現在、本市では青少年育成のための様々な体験学習を実施しており、代表的なものが市内の小学5、6年生を対象とした「地域・世代を超えた体験学習事業『あれこれ体験in片浦』」である。この事業は、子どもたちに、楽しいだけでなく敢えて辛く困難な経験をさせ、たくましさや協調性、優しさなどを身につけることと、その機会を通じて郷土を再認識するとともに様々な世代の大人と時間を共有し、多くの経験を重ねさせることを目的として、平成22年度から始まった。

事業の実施にあたっては「OOTS」の受講生が指導者として参画し、実行委員会でもOOTS受講生が委員を務めている。また事業スタートと同時期に、廃校となった中学校の活用方法を検討した。この廃校が自然環境に恵まれ、鉄道駅も近いという好条件であることなどから、この施設と周辺地域を利用して事業を実施することとした。

実施場所となった片浦地域は海、山が近接し、さらに清流が流れ、風光明媚な自然環境の上、東海道本線根府川駅を中心として概ね半径1キロ以内に様々な体験活動が可能な施設が点在し、体験活動の実施には適当な地域となっていることから、「あれこれ体験in片浦」という2泊3日の体験学習事業のフィールドとなった。

事業がスタートした平成22年度は、50名の定員には及ばなかったもののプログラムとしては一定の成果が得られ、迎えた2年目の平成23年度には定員70名に対して、その3倍を超える申し込みがあり、市民の反響とその手応えが得られた。しかし、1度に70人もの子どもの受け入れは、プログラム進行や子どもたちの安全確保を図る上で、引率する指導者の負担が大きくなるという問題が発生した。そこで、平成24年度は小学校5、6年生の男女各24人ずつの計48名を定員とした2泊3日の事業を2回実施し、合計96名の子どもたちを受け入れた。指導者については2回のうち両日、あるいはいずれかで参加を募った。ちなみに宿泊は、よりダイナミックに、より自然に近づく体験学習を提供するとして、校庭に27張のテントを設営した特設のテント村を作り上げている。

「あれこれ体験in片浦」は、年度初めの4月上旬のOOTS受講生に対する指導者としての参加募集から始まる。その後、指導者として参加していただける方の中から実行委員を選出し、第1回目の実行委員会で、委員長、副委員長（2名）、会計、監事を選出、その他各委員の計8名を決めていく。体験学習当日までに5回程度の実行委員会を開催してプログラムの内容、役割分担、タイムスケジュール、安全管理などについて話し合い、事業実施後にはふりかえりを行う。なお実行委員会の開催時間は毎回午後7時から9時までの2時間ほどで、体験プログラムで使用する各施設との調整などは指導者負担への配慮から、実行委員会の事務局である行政側（青少年課）が行っている。

この事業の特徴は「おだわら自然楽校」の受講生が実行委員会を組織して地域の特性を取り込んだプログラムの企画と事業の運営を併せて行うところにある。

体験学習当日は小田原駅に集合のあと、JR東海道線で大阪方面へ2駅目の根府川駅へ移動し、そこから徒歩10分ほどで会場となる旧片浦中学校へ移動する。指導者によるアイスブレイクで始まり、参加者と指導者を4つの班に分けた後、半日の時間を費やしプロ講師によるグループビルディングを実施している。そして、班ごとに3日間の支えとなる「思い」を寄せるBeingを作成する。夕飯では豚丼とポトフを指導者が役割ごとに作業を進め、手際よく調理していく。

指導者たちは夕食後、キャンプファイヤーの

準備に取り掛かる一方、子どもたちは班付きの指導者からスタンプを教わりながら交流を深め本番に備えている。このころには初対面の子どもたちもすっかり仲良くなり、一体感が高まりキャンプファイヤーへと突入していく。

2日目は「自分で作る朝食」をテーマにバーナーとコップェルを使い、わかめうどんを調理する。火（バーナー）を使用するため、指導者は取り扱いの説明だけでなく、細心の注意を払いながら活動を進めていく。

そして、メインプログラムとなる体験型ウォークラリーは4つのコースを設定。体験内容は、海での「シュノーケリング体験」、川での「マスつかみ体験」、「ブルーベリー摘み取り体験」、「ジャム作り体験」、「こんにやくづくり体験」、「乗馬体験」など、この地域の特性を活かしたものとなっている。また、ウォークラリーコースにあるホテルを使用した「就業体験」で、ホテルスタッフからプロの接客マナーを学ぶだけでなく、その研修を受けた子どもたちはホテル内で夕食をとる他の子どもたちや指導者を実際に「もてなす」ことで研修成果を披露するプログラム構成となっている。研修終了時には、スタッフとして働いた子どもたちに、もてなしを受けた子どもや指導者たちが大きな拍手を贈る、「仲間が仲間を称える」光景が広がり、3日間のプログラムの中でも感動的な場面のひとつである。この後、子どもたちは指導者とともに旧片浦中学校に戻って、1日の振り返りを行い、夜の楽しい時間を過ごしながらか2回目のテント泊を迎える。

3日目は牛乳パックを使用した朝食「カートンドック」作りから始まる。ここでも火を使用することから注意を払いながら調理を進めていく。燃えていく牛乳パックを眺めながらパック中のパンがどうなるのだろうと興味津々不安そうな子どもたちの姿も見られた。

最後のプログラムは体験学習の締めくくりであるふりかえりとして、1枚の模造紙に3日間の楽しかった思い出を書き上げていくグループワークを行っている。閉会式後、根府川駅から小田原駅へと向かい、3日間すべてのプログラムが終了となる。

平成24年度は2回の実施のうち、それぞれ27名と22名の合計49名の指導者が携わった。指導者により参加可能な日数や時間が異なるため、3日間連続して参加できる方が班付きの指導者として、常に子どもたちと行動を共にし、そ

れ以外の指導者は調理や会場準備などの役割分担とした体制を取っている。他の体験学習と比べ、OOTS受講生で構成される幅広い世代の指導者においては、研修や実践経験の多寡にかかわらず指導者個々の持つ指導者としての資質や能力によって指導力に差が生じている点は否めないが、幅広い世代の指導者間で、また指導者と行政（青少年課）間において良好なコミュニケーションが図られているOOTSの特色が生き、技量の高い指導者が他の指導者をフォローする関係が構築されている。事業における基礎となる土台を実行委員と行政（青少年課）で固め、指導者に任せるところは任せるという体制と信頼関係が構築されることにより、能力に関わらず個々の指導者が持てる技量の全てを發揮し、それぞれの指導者が自信と責任を持って活動しやすい環境を作ることによって、個々の指導者の不足する部分を全体で補っている。また、これによりプログラムにおいて、子どもと関わる指導者が多くなり過干渉になりがちではあるが、子どもたちが意見を出し合い、共に考え、まとめながらプログラム進行していく中で、幅広い世代の多くの指導者と時間を共有しコミュニケーション能力を学ぶ機会として捉えており、参加者（子ども）と指導者（大人）は、「保護者と子ども」、「先生と児童」のような縦の関係ではなく、参加者と指導者が寄り添い一緒に活動することにより、『世代を超えた仲間』というフラットな関係を築きあげ、参加者（子ども）にとっては、様々な年代の指導者（大人）と接し、日常生活において乏しくなっている大人とのコミュニケーションが得られる貴重な体験の場になっていることがこの事業の大きな特徴の一つである。

このように地域・世代を超えた体験学習は、『OOTS』の受講生が研修で得た知識やスキルを發揮し、実際に子どもたちと触れ合うことの出来る実践経験の場として位置づけられている。

このほかにもOOTS受講生は1泊2日の「あれこれ体験in城下町」や、日帰りの体験学習「片浦R（ラリー）・P（フォト）・G（ゲーム）」や「RPG in城下町」の企画・運営も行い、本市の青少年育成としての体験学習事業の実施において必要不可欠な存在となっている。



Ⅲ. 課題と対策

OOTSはこれまで延べ300人以上が受講し、本市の指導者派遣事業や体験学習事業には欠かせない存在となっているが、3年目を迎えた現在、指導者として参加する時の負担増と新規受講人数の伸び悩みでの課題がある。また、指導者派遣事業や体験学習事業には多くの指導者が必要となるが、現時点において決して余裕のある状況とは言えない。モチベーションも高く積極的に活動をしている受講生も、仕事や学業の合間を縫っての参加となるため、必要な指導者の確保が難しい場面が生じている。

(1) 新規受講生の拡大

現状の課題を解決するには受講生人数の拡大が必要であることから、平成24年度には市内在住、在勤・在学としていたこれまでの応募条件に加え、市外の方も参加できることとした。また、市内の大学や周辺市町の青少年関係団体、近隣の野外活動施設へ募集チラシ配布を依頼。さらには他の事業で関わりを持った青少年指導者や職員（青少年課）が参加した研修で知り合った方たちへ連絡するなど、積極的に行動した結果、平成24年度の新規受講生の増加が図られた。

(2) 受講生のモチベーションアップ

これまでも研修内容には配慮してきたが、より充実させた魅力的なものを提供することで、多くの方に参加してもらおうことを目指すとともに、受講生の一層のモチベーションの向上を図るため、平成23年度から、文部科学省の資格認定研修である「自然体験活動補助指導者養成研修」を取り入れた。

平成24年度はステップアップした「自然体験

活動全体指導者養成研修」を実施し、24名が資格取得に至っている。

また分野ごとにテレビや雑誌で活躍している著名な講師などを招くことで、参加者の関心を高め、より多くの方に参加してもらえるよう努めている。

Ⅳ. 今後の取り組み

平成25年度はこの事業がスタートして4年目を迎える。これまで培ってきた経験やノウハウを活かしながら、熱意ある指導者を育成できる環境づくりを進めるとともに、新たな受講生拡大を図ることで、より充実した指導者養成研修事業を目指していく。

また、この事業をより活かすため、「放課後児童クラブ（学童保育）」の指導者や、地域で活動をしている青少年指導者など、子どもに携わる多くの方にもOOTSでの研修へ参加を呼びかけることで、研修のより一層の広がりを目指していく。

さらに、資格取得研修として環境教育プログラムを講習に加えるとともに、外部研修（OOTS以外の研修）で資格を取得した受講生にOOTS研修の中で、講師として他の受講生を指導する機会を与えるなど、魅力ある新たな仕組みを構築していく。

Ⅵ. まとめ

おだわら自然楽校が開校し3年間に過ぎた。これまでたくさんの志高い方が受講し、また多くの受講生は指導者として研修で得た知識や技術を発揮し、子どもたちに多くの体験学習機会を提供してきた。体験学習を通じて子どもたちが得る経験は、その成長過程において非常に大切なものであり、人間性豊かな大人になる糧となっている。様々な体験学習の場で見せる子どもたちの笑顔、歓声、そして事業後に寄せられる感謝の言葉や手紙を見るたびに、体験学習事業の必要性、素晴らしさを感じるとともに、これまで私たち行政職員が学校や地域と指導者を繋ぐ役割を果たしてきた成果を改めて実感する。

これからも試行錯誤を繰り返しながら受講生や講師のみなさんと協働し、「小田原方式」として築き上げてきた指導者養成研修事業（OOTS）をより一層充実させ、一人でも多くの子どもたちに安全で魅力ある体験学習の機会を提供できるよう努めていきたい。